

子宮けいがんの予防について ～HPVワクチンについて知ってください～

HPVワクチンは、**小学6年から高校1年相当の女子**を対象とした定期予防接種です。平成25年に定期接種の積極的勧奨が中止となっていました。令和4年4月から市町村より接種の個別勧奨が実施されることとなりました。**子宮けいがんを予防するために**、下記についてご理解の上、是非、HPVワクチンの接種についてご検討ください。

子宮けいがんとは？

子宮けいがんは、子宮のけい部という子宮の出口に近い部分にできるがんです。若い世代の女性のがんの中で多くを占めるがんです。

日本では毎年、約1.1万人の女性が子宮けいがんになり、毎年、約2,900人の女性が亡くなっています。

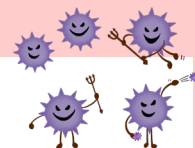


子宮けいがんの原因

HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染が原因と考えられています。

このウイルスは、**女性の多くが一生に一度は感染する**といわれるウイルスです。

HPVは一度でも性的接触の経験があれば、だれでも感染する可能性があります。



子宮けいがんでも苦しまないためにはできることは、**HPVワクチンの接種**と**子宮けいがん検診の受診**の2つです。
(HPVの感染を予防) (がんを早く見つけて治療)

HPVワクチンの効果

・HPVの中には子宮けいがんをおこしやすい種類のものがあります。HPVワクチンは、このうち一部の感染を防ぐことができます。そのことにより、子宮けいがんの原因の**50～70%**を防ぎます。

・がんになる手前の状態が減るとともに、がんそのものを予防する効果があることも分かっています。

HPVワクチンのリスク

・接種を受けた部分の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。

・ワクチンの接種を受けた後に、まれにですが重い症状が起こることがあります。ワクチンが原因となったものかどうかわからないものをふくめて、接種後に重篤な症状として報告があったのは、ワクチンを受けた**1万人あたり約6人**です。

HPVワクチンに関する相談先一覧

引用：厚生労働省 HPVワクチン接種の対象年齢のお子様及びその保護者向けリーフレット

一般的な相談窓口（医療、健康被害救済制度等に関するご相談）

・福岡県保健医療介護部がん感染症疾病対策課 TEL (092-643-3597)

※下記市にお住まいの方の相談窓口

・北九州市保健福祉局感染症医療政策課 TEL (093-582-2090)

・福岡市保健医療局健康医療部保健予防課 TEL (092-711-4270)

・久留米市健康福祉部保健所保健予防課 TEL (0942-30-9730)

予防接種の実施に関する相談窓口

→お住まいの市区町村の予防接種担当部門

接種後に、気になる症状が出たとき

→まずは、接種を受けた医師・かかりつけの医師にご相談ください

詳しい情報は、下記のQRコードから厚生労働省ホームページをご覧ください。



(参考) 地域におけるHPVワクチン接種にかかる診療・相談体制の強化のイメージ

従来からある連携の枠組みを再活性化するとともに、重要な取組みについてはさらに強化していく。

